

# V 果 樹 類

果樹の防除基準はその時期に発生しやすい病害虫について、その対策を示した暦方式が主体である。病害虫の発生状況に応じて、防除時期と方法を選択し、効率的防除に努める。

## 1. 果樹類

・殺虫剤

IRACコード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
11	バイオマックスDF	散布	発生初期（但し、収穫前日まで）	-	果樹類（りんごを除く）
11	ファイブスター顆粒水和剤	散布	発生初期（但し、収穫前日まで）	-	

注1) 使用回数はその薬剤の使用回数を記載しており、この他に薬剤に含まれる成分毎に、総使用回数が決められているので、農薬ラベル等を確認してそれを超えないように注意する。

注2) 薬剤抵抗性の出現を防ぐため、「FRACコード」や「IRACコード」を参考にしながら他系統剤とのローテーション使用を心掛ける（「薬剤抵抗性管理」参照）。

注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

農薬の使用回数は、前年の収穫後から本年の収穫までの期間の使用回数であるので注意する。

病害虫名	防除時期	防除方法	注意事項
ハマキムシ類	若齢幼虫期	1. バイオマックスDF 2,000～3,000 倍液又はファイブスター顆粒水和剤 2,000 倍液を散布する。	<バイオマックス、ファイブスターに関する共通事項> 1. 効果の発現はやや遅効的であるが、摂食活動は停止する。 2. 訪花昆虫に影響が少ないが、マメコバチ成虫に直接薬液がかかると影響がある。 3. アルカリ性の強い農薬との混用は避ける。 4. バイオマックス、ファイブスターは蚕毒に特に注意する（特別指導事項参照）。
ケムシ類	若齢幼虫期	1. ファイブスター顆粒水和剤 1,000 倍液を散布する。	

### 【総括注意】

1. バイオマックスDF、ファイブスター顆粒水和剤はBT生菌剤で蚕毒が極めて強く、使用地域の指定があるので、これ以外では使用しない（特別指導事項参照）。

2. マイナー果樹などに初めて使用する場合は、まず、樹体の一部に散布して薬害の有無を確認する。